



2023年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年6月13日

上場会社名 株式会社バルニバービ 上場取引所 東
 コード番号 3418 URL <https://www.balnibarbi.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 佐藤 裕久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 宮下 大輔 TEL 06-4390-6544
 四半期報告書提出予定日 2023年6月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年7月期第3四半期の連結業績（2022年8月1日～2023年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第3四半期	9,968	42.3	973	—	956	18.7	640	23.5
2022年7月期第3四半期	7,006	12.2	△562	—	806	—	518	△24.4

(注) 包括利益 2023年7月期第3四半期 642百万円 (23.4%) 2022年7月期第3四半期 520百万円 (△24.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年7月期第3四半期	72.35	—
2022年7月期第3四半期	60.48	59.06

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、2023年7月期第3四半期は潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年7月期第3四半期	8,999	2,943	31.3	318.53
2022年7月期	8,892	2,367	25.3	253.68

(参考) 自己資本 2023年7月期第3四半期 2,821百万円 2022年7月期 2,246百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期	—	2.50	—	5.00	7.50
2023年7月期	—	2.50	—	—	—
2023年7月期（予想）	—	—	—	7.50	10.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 2023年7月期（予想）期末の内訳 普通配当 5円00銭、特別配当 2円50銭

3. 2023年7月期の連結業績予想（2022年8月1日～2023年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,973	30.1	923	—	911	△23.1	520	320.7	58.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年7月期3Q	9,023,880株	2022年7月期	9,023,880株
② 期末自己株式数	2023年7月期3Q	167,405株	2022年7月期	167,405株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年7月期3Q	8,856,475株	2022年7月期3Q	8,579,437株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限が緩和されたことに伴い、経済活動は持ち直しの動きがみられた一方でエネルギー・原材料価格の高騰、円安の進行等による国内景気や企業収益、個人消費への影響が懸念され、先行きは依然として予断を許さない状況が続いております。外食業界におきましては、感染症対策の規制類が順次緩和されたことにより人流が戻りつつある中で、景況感に回復の兆しがみられたものの、物価上昇や労働者不足などにより厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、従来の「レストラン事業」におけるバッドロケーション戦略での出店で培ったノウハウや知見をもとに、食をベースに総合的なエリア開発を行うことで活性化した不動産の流動化により新たな収益を見込む「エステートビルドアップ事業」を2つ目の成長戦略の柱とし、「食から始まる日本創再生」に取り組んでおります。

レストラン事業においては、ニューノーマルのライフスタイルにおける新しい外食時間として、時間の概念にとらわれず楽しんで頂けるメニューの提案や空間づくりに取り組むことで、新たな付加価値創出を図っております。また行政・自治体からの出店要請は引き続き強いニーズがあると考えられ、出店エリアを厳選したうえで新規出店に伴う運営体制の構築に取り組んでおります。エステートビルドアップ事業においては淡路島北西海岸を舞台に展開する食を通じた地方創生プロジェクト「F r o g s F A R M A T M O S P H E R E」におきまして、飲食店、宿泊施設の展開等、地域の皆さまや賛同者との協業を推進しております。同エリアにおきまして、2014年に閉校となった淡路市立尾崎小学校の跡地をリノベーション開発し、地域コミュニティの中心であった学校という場において、近隣住民や地元生産者と共に「雇用の創出、定住人口・交流人口の増加、地元交流」を目的に食を始めとした周辺環境と調和する施設構成により、住みたくなる街づくりを推進しております。2022年9月にはSBIホールディングス株式会社との間において、両社グループの知見、ノウハウ、ネットワーク等の相互の強みを活かした協業を推し進めることにより、食と金融、自治体や地域企業を連携させ、地方創生の取り組みを加速させていくことを目的に、資本業務提携を締結しております。一例として、島根県出雲市においてSBIホールディングス株式会社、株式会社島根銀行及び地元企業との間で地域活性化を目的に共同設立された特別目的会社より委託を受け、まちづくり第一期構想としてレストラン、宿泊施設及び大型パーキングエリアを2023年5月1日に開業いたしました。また2023年1月には活性化した不動産の流動化を目的に東京都台東区にある販売用不動産を売却し、過去最大規模の不動産売却益を創出いたしました。当該物件の売却価格の総額については、直前期（2022年7月期）の売上高の10%程度に相当する額であり、レストラン事業で培った人の流れを変えるノウハウにより不動産価値を上げる当社オリジナルの戦略から生まれた外食事業の新しい収益と位置付け、業績に貢献してくれた従業員へ特別賞与イノベティブシナジーボーナスとして分配すると共に、2023年3月14日には2023年7月期通期業績予想の上方修正を公表いたしました。

当第3四半期連結累計期間における当社及び連結子会社の店舗の増減といたしましては、レストラン事業のバッドロケーションにおいて4店舗をクローズ、不動産デベロッパーにおいて1店舗をクローズ、大学・その他において期間限定で2店舗をオープン、期間限定店舗を1店舗、譲渡により1店舗をクローズ、エステートビルドアップ事業において2店舗をオープン、期間限定店舗を1店舗クローズし、当第3四半期連結会計期間末における当社グループの運営する店舗数は92店舗となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は9,968,746千円（前年同四半期比42.3%増）、営業利益は973,320千円（前年同四半期は営業損失562,274千円）、経常利益956,846千円（前年同四半期比18.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益640,808千円（前年同四半期比23.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

① レストラン事業

店舗運営におきましては、店舗運営子会社における各店舗の状況に合わせたきめ細かい店舗運営に取り組み、ピアガーデンやバーベキュー、こたつテラス等季節に応じた店舗運営、営業企画やイベントの立案、コロナ禍におけるソーシャルディスタンスを保った安心安全なテラスの活用や、中食需要の高まりから店舗外商品の販売強化目的にECサイトの充実等、顧客満足度の向上と収益性を安定させる取り組みを実施しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,879,115千円（前年同四期比33.1%増）となり、セグメント損失は119,645千円（前年同四半期はセグメント損失831,386千円）となりました。

(a) バッドロケーション

バッドロケーション戦略におきましては、大型・複合型物件の開発を進める一方で、行政や大手デベロッパーとの連携により様々なソーシャルプロジェクト等へ参画を行うことで、食をベースに複合的な店舗

開発を推進しております。また引き続きバッドロケーション戦略の店舗の運営安定化を目的に不動産定期借家契約による退店リスクのある物件につきましては土地、建物、借地権取得等不動産保有を推進し、店舗運営の安定化による収益性確保、不動産価値向上による財務体質の改善に努めております。

2022年10月には茨城県土浦市「プレイアトレ土浦」にて2フロアに展開しておりました店舗を集約し、運営効率をはかるべく「ハオツー 中華料理」、「スロージェットコーヒークッキー」、「タルトスピーカー」をクローズ、2022年12月には東京都文京区「アリンコ小石川工場前店」を同敷地内の「パラディ小石川」に統合し、クローズしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末におけるバッドロケーション戦略の店舗数は、関東地区20店舗、関西地区7店舗、その他地域2店舗の計29店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,349,528千円（前年同期比26.0%増）となりました。

(b) 不動産デベロッパー

不動産デベロッパー戦略におきましては、好立地、特別な店舗家賃での誘致や初期投資の軽減等好条件での物件獲得を行うことができ、売上規模、収益性、話題性の高い物件を選定することで当社グループの個性を活かした店舗開発を推進しております。2023年3月には業務委託契約満了に伴い、大阪市北区「シヤンデリア テーブル」をクローズしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における不動産デベロッパーの店舗数は、関東地区19店舗、関西地区12店舗、その他地域2店舗の計33店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は3,627,805千円（前年同期比39.4%増）となりました。

(c) 行政・公共機関

行政・公共機関戦略におきましては、新たな地方自治体との取り組みにおいて、その街ならではのオリジナルな業態の開発、地域活性化イベントの開催などを行い、地方創生ネットワークの形成を推進しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における行政・公共機関戦略の店舗数は、関西地区11店舗、その他地域1店舗の計12店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,332,005千円（前年同四半期比31.4%増）となりました。

(d) 大学・その他

大学・その他戦略におきましては、学生のみならず近隣住民へのターゲット層の拡大及びコストコントロールによる収益性改善を進めております。また、顧客の消費動向の変化により拡大した中食需要の取り込みを目的とした通販サイト「CANDLE TABLE」の展開等、顧客満足度の向上と収益性を安定させる取り組みを行っております。2022年12月には新潟県魚沼郡湯沢町のかぐらスキー場において期間限定店舗である「ぶなキッチン/スープ ステーション田代」をオープン、長野県北安曇郡のつがいけマウンテンリゾートにおいて期間限定店舗「瀬戸内淡路島 中華そばのうえ」をオープンし2023年4月にクローズ、2023年1月には「鹿屋アスリート食堂 研究開発本部」を譲渡のためクローズしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における大学・その他の店舗数は、関東地区1店舗、関西地区3店舗、その他地域2店舗の計6店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高282,071千円（前年同期比35.0%増）となりました。

(e) その他の事業

その他の事業は、企業、行政機関などに対して、地域ブランド振興、カフェやレストランの企画・開発等のコンサルティングを行っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は187,374千円（前年同期比18.7%増）となりました。

② エステートビルドアップ事業

当社グループでは、兵庫県淡路島における食をベースとした地方創生プロジェクト「Frogs FARM ATMOSPHERE」を筆頭に、島根県出雲市における地方創生プロジェクト「WINDY FARM ATMOSPHERE」に取り組むことで、地方創生ネットワークの形成を推進しております。兵庫県淡路市におきましては、一棟貸し宿泊施設として2022年8月に「KAMOME SLOW HOTEL Wallid Villa」をオープン、2022年10月に「KAMOME SLOW HOTEL YUCCA」をオープンし、兵庫県洲本市におきましては、2022年8月に期間限定店舗である「OHAMA BEACH TERRACE」をクローズしております。2023年1月には活性化した不動産の流動化を目的に東京都台東区にある販売用

不動産を売却し、過去最大規模の不動産売却益を創出しました。また2023年4月には全17室のリゾートホテル「ホテル ザ コンパクト」、物販店「イレギュラーガレージ」をオープンしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末におけるエステートビルドアップ事業の店舗数は関西地区12店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,189,961千円（前年同期比88.7%増）となり、セグメント利益は1,092,966千円（前年同期比306.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

現金及び預金の減少499,827千円、売掛金の増加56,948千円、販売用不動産の増加457,761千円、未収還付法人税等の増加145,051千円、未収消費税等の減少57,041千円、工具、器具及び備品の増加59,397千円、建設仮勘定の増加68,416千円、長期預金の減少50,000千円及び繰延税金資産の減少106,000千円等により、総資産は前連結会計年度末に比べ106,169千円増加し8,999,136千円となりました。

(負債)

短期借入金の減少300,000千円、1年内返済予定の長期借入金の減少131,492千円、未払金の増加129,669千円及び未払法人税等の減少172,836千円等により、負債は前連結会計年度末に比べ469,877千円減少し6,055,507千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して、576,046千円増加し、2,943,628千円となりました。これは主に利益剰余金の増加574,384千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2023年3月14日の「2023年7月期通期業績予想及び配当予想の修正（増配、特別配当）に関するお知らせ」で公表いたしました2023年7月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,681,246	2,181,419
売掛金	483,936	540,885
商品及び製品	147,784	194,336
原材料及び貯蔵品	30,923	33,644
販売用不動産	1,488,023	1,945,785
未収還付法人税等	51,845	196,896
未収消費税等	60,542	3,500
その他	292,613	267,392
流動資産合計	5,236,916	5,363,861
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,219,731	1,194,544
機械装置及び運搬具(純額)	20,180	33,575
工具、器具及び備品(純額)	385,051	444,448
土地	191,720	208,632
リース資産(純額)	55,652	36,452
建設仮勘定	6,578	74,995
有形固定資産合計	1,878,914	1,992,648
無形固定資産		
借地権	346,693	333,842
その他	14,554	14,471
無形固定資産合計	361,247	348,314
投資その他の資産		
投資有価証券	3,450	3,450
長期預金	50,000	—
差入保証金	630,510	677,280
繰延税金資産	669,554	563,553
その他	62,372	50,027
投資その他の資産合計	1,415,887	1,294,311
固定資産合計	3,656,050	3,635,274
資産合計	8,892,967	8,999,136

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	272,804	321,529
短期借入金	1,850,000	1,550,000
1年内返済予定の長期借入金	779,699	648,207
リース債務	60,701	43,922
未払金	611,767	741,436
未払法人税等	399,819	226,982
未払消費税等	102,269	123,956
賞与引当金	4,255	16,381
その他	148,991	178,624
流動負債合計	4,230,309	3,851,041
固定負債		
長期借入金	1,422,816	1,399,268
リース債務	54,678	23,652
資産除去債務	714,950	681,333
その他	102,630	100,212
固定負債合計	2,295,075	2,204,465
負債合計	6,525,384	6,055,507
純資産の部		
株主資本		
資本金	466,825	466,825
資本剰余金	815,088	815,088
利益剰余金	1,137,385	1,711,769
自己株式	△172,596	△172,596
株主資本合計	2,246,701	2,821,086
非支配株主持分	120,880	122,542
純資産合計	2,367,582	2,943,628
負債純資産合計	8,892,967	8,999,136

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
売上高	7,006,992	9,968,746
売上原価	2,213,203	2,824,596
売上総利益	4,793,789	7,144,150
販売費及び一般管理費	5,356,064	6,170,830
営業利益又は営業損失(△)	△562,274	973,320
営業外収益		
受取利息	327	306
受取保険金	5,922	5,663
消費税差額	6,403	4,814
助成金収入	1,382,770	11,440
違約金収入	2,567	3,190
その他	3,380	5,101
営業外収益合計	1,401,372	30,517
営業外費用		
支払利息	13,454	11,193
シンジケートローン手数料	10,996	18,129
支払手数料	—	7,500
その他	8,519	10,167
営業外費用合計	32,970	46,991
経常利益	806,127	956,846
特別利益		
固定資産売却益	235	4,560
固定資産受贈益	12,570	—
補助金収入	73,396	—
特別利益合計	86,201	4,560
特別損失		
固定資産除却損	766	2,645
固定資産圧縮損	73,396	—
特別損失合計	74,162	2,645
税金等調整前四半期純利益	818,166	958,762
法人税、住民税及び事業税	332,827	210,291
法人税等調整額	△35,169	106,000
法人税等合計	297,658	316,292
四半期純利益	520,508	642,469
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,642	1,661
親会社株主に帰属する四半期純利益	518,865	640,808

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
四半期純利益	520,508	642,469
四半期包括利益	520,508	642,469
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	518,865	640,808
非支配株主に係る四半期包括利益	1,642	1,661

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年8月1日至2022年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	レストラン事業	エステート ビルドアップ 事業	合計		
売上高					
関東	2,992,510	—	2,992,510	—	2,992,510
関西	2,372,230	1,160,628	3,532,858	—	3,532,858
その他	399,321	—	399,321	—	399,321
顧客との契約から生じる収益	5,764,062	1,160,628	6,924,690	—	6,924,690
その他の収益	82,302	—	82,302	—	82,302
外部顧客への売上高	5,846,364	1,160,628	7,006,992	—	7,006,992
セグメント間の内部売上高 又は振替高	75,193	—	75,193	△75,193	—
計	5,921,557	1,160,628	7,082,186	△75,193	7,006,992
セグメント利益又は損失(△)	△831,386	269,111	△562,274	—	△562,274

(注) セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年8月1日至2023年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	レストラン事業	エステート ビルドアップ 事業	合計		
売上高					
関東	3,804,089	1,393,300	5,197,389	—	5,197,389
関西	3,306,348	790,898	4,097,247	—	4,097,247
その他	574,022	5,762	579,785	—	579,785
顧客との契約から生じる収益	7,684,461	2,189,961	9,874,422	—	9,874,422
その他の収益	94,324	—	94,324	—	94,324
外部顧客への売上高	7,778,785	2,189,961	9,968,746	—	9,968,746
セグメント間の内部売上高 又は振替高	100,329	—	100,329	△100,329	—
計	7,879,115	2,189,961	10,069,076	△100,329	9,968,746
セグメント利益又は損失(△)	△119,645	1,092,966	973,320	—	973,320

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。